



子どもたちの笑顔から地域の交流を

町田市の中心市街地、原町田。商業ビルと昔ながらの商店街が隣り合い、いつも賑わっている。その一角にある町田天満宮の宮司・池田泉さんは、自然との触れ合いや昔ながらの遊びを通して、地域の子子どもたちを育てる活動に携わっている。もともと、地域活動に特に関心はなかったという池田さんに、地域での活動に積極的に関わることになったきっかけについて聞いてみた。「『原町田ふれあいまつり』という原町田地区のお祭りがあります。今は模擬店や舞台上での出し物などをやっていますが、その前身になった活

動がありまして。当時はカレーパーティーやキャンプファイヤーを囲んだフォークダンスもありましたね。神社の催し物の際に協力してくれていた方から『ちょっとお手伝いをしてほしい』とお願いされて、2年ほどお手伝いをさせていただいたんです。楽しみながらやっていて、気が付いたら青少年健全育成地区委員として活動していた感じですね（笑）」池田さんが活動を続けていく上での原動力は何なのだろうか。

「大変なこともあるけれど、子どもの笑顔を見ていると、疲れがふっとび

ます。昔ながらの遊びを今の子どもたちに実際に体験してもらいたいという気持ちが、モチベーションにつながっています。夏場のキャンプでは、子どもたちとカレーを作ったりハイキングをしたり、虫や草木、時にはヘビに遭遇して一喜一憂したり、川遊びをしたり。それだけで子どもたちはいきいきしていますよ。」

子どもに昔の遊びの面白さを伝えることが、地元のコミュニティと新しく地域に引っ越してきた人との橋渡しになればと語る池田さん。今後の原町田地区協議会の取り組みに注目だ。



原町田ふれあいまつりには、子どもから大人まで多くの人が来場する。



子どもたちによるステージ発表。みんなで楽しくダンスする。



地区協議会に所属する団体が出展。子ども会や保育園、PTA、高齢者支援センターの出展も。

更なるワクワク感を目指して

町田市の中心部に近く、住宅が立ち並ぶ町田第二地区。ここにある芝生広場「町田シバヒロ」でステージ発表やゲームなどを通じた交流イベント「まち2フェス in シバヒロ」が開催された。このイベントの中心人物が町田第二地区協議会事務局長の越水淳さんだ。

毎年参加していた町田さくらまつりがコロナ禍で中止され、交流の場がなくなる中、今年こそ何かやろうという地区協議会代表の一言から始まったこのイベント。当日は1,000人も来場者が訪れ大盛況。「前日準備は大雨の中、何時間もかけて機材などを運ぶ大

変な作業でした。」と越水さん。大人から子どもまで皆の楽しそうな笑顔や、実行委員会のメンバーが親身に来場者に対応する姿に大きな達成感を得た。

若い頃は、町内会のイベントを頼まれたときに手伝う程度だった越水さ



ん。深く活動に関わるようになったのは52歳のときに町内会の役員を引き受けてから。働きながらの役員は大変だったそうだ。今も反省会という名の飲み会や仲間とのゴルフでリフレッシュしながら活動を続ける。そういった場でのコミュニケーションもス

ムズな活動につながるという。「活動はボランティア精神と助け合いで成り立っているから。それぞれの得意分野を活かせるように役割分担をしています。話すとその人が得意なことが分かるので。」

まち2フェスの次の開催はまだ決

まっていないが、このようなイベントを通して地区の活動を知ってもらい、一緒に活動する仲間ができれば、と期待する。「様々な団体に声をかけて毎年ちょっとずつ新しい試みを入れて。さらなる『ワクワク感』が生まれれば。」と力強く語った。



老若男女が参加するまち2フェス in シバヒロ。みんなで綱引きする様子。



ステージでは、思い思いのパフォーマンスを披露。



シャボン玉コーナーには大人の姿も。みんなが楽しそうにシャボン玉を飛ばす。